

第2章. 上位・関連計画の整理

2. 1 第3次下関市総合計画

策定年 : 令和7年(2025年)3月

計画期間: 令和7年(2025年)度~令和16年(2034年)度

まちづくりの基本理念: 可能性を築くまち

■10年後の下関

	令和5年(2023年) 基準値	令和16年(2034年) 目標値
下関は「住みやすいと思う」市民の割合	88%	100%
下関を「自分のまちとして愛着を感じる」市民の割合	84%	100%
下関に「住みたい住み続けたいと思う」市民の割合	70%	100%
若者(39歳以下)の社会減	-	ゼロ

■地域別まちづくりの方向性

(1) 都市拠点ゾーン

本市の経済産業の中心として高度な都市的サービスを担い、また、行きたい、住みたい、働きたい、チャレンジしたいと感じる、魅力と活力に満ちあふれるまちの顔となる市街地機能を有するエリアとして、都市拠点ゾーンを形成します。

(2) 環境共生ゾーン

地域の特徴を活かして本市を代表する多様な魅力や価値観を創造する場としての機能を強化します。

① 田園環境共生ゾーン

豊かな自然と共生し、その恵みを活かしたまちづくりを推進するエリアとして、田園環境共生ゾーンを形成します。

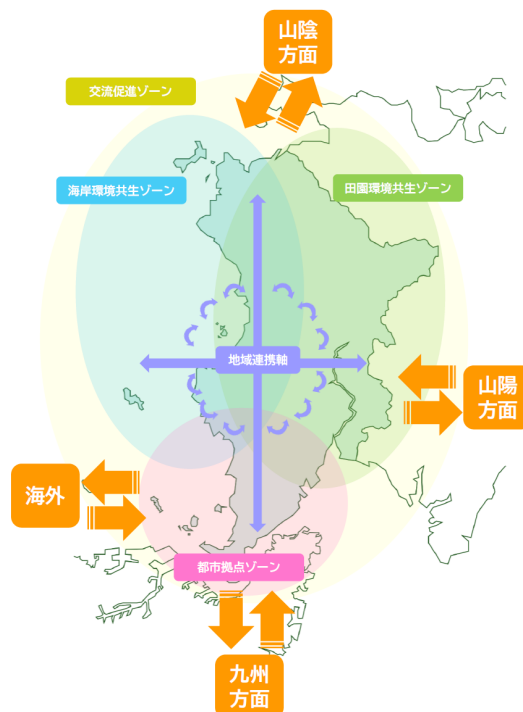
② 海岸環境共生ゾーン

山陰海岸を有する豊かな自然と共生し、海との関わりを活かしたまちづくりを推進するエリアとして、海岸環境共生ゾーンを形成します。

(3) 交流促進ゾーン

地域の多様な人材・資源を活かしたまちづくりを推進し、市全体の価値や魅力を向上させることにより、市外さらには海外との多分野における交流を展開する交流促進ゾーンを形成します。

■地域別まちづくりの方向性(イメージ図)



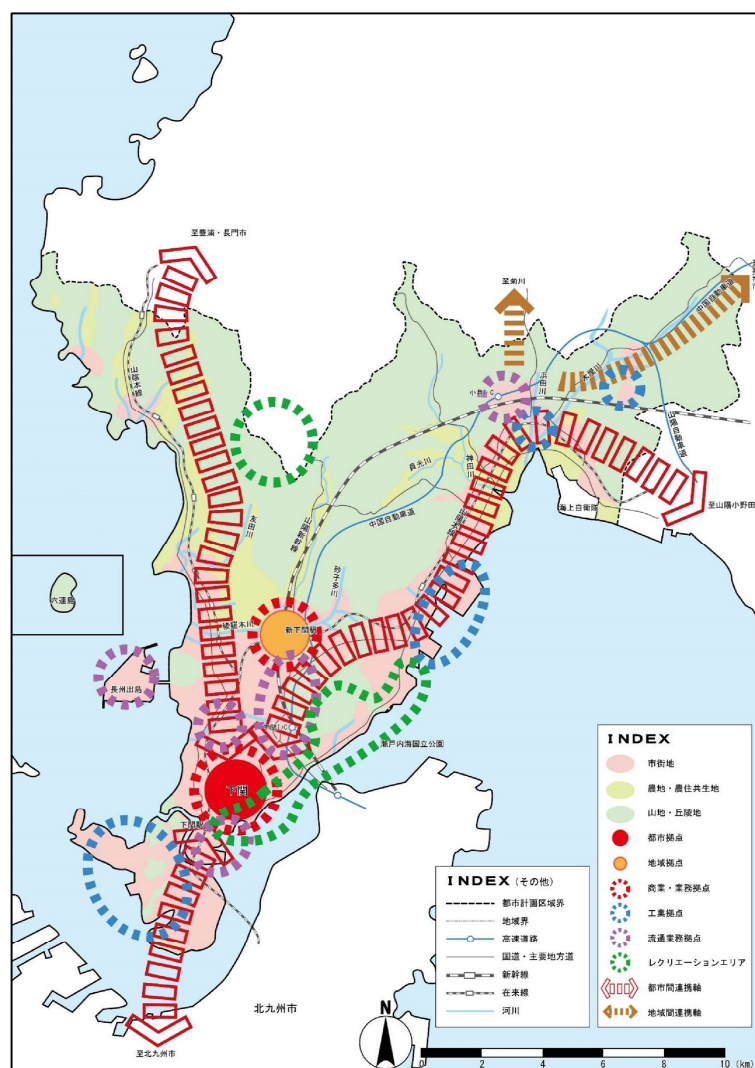
2. 2 下関都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

策定年：令和2年（2020年）12月

目標年次：令和22年（2040年）

都市づくりの基本理念：山陽・山陰から九州、アジアに広がる国際交流都市づくり

- 海峡や歴史的資源を活かした風格ある都市景観の形成を図り、にぎわいのある美しい都市づくりを進める。
- 都市内に蓄積された都市基盤施設を活用することで、中心市街地の再構築を行う。
また、立地適正化計画により都市機能等を誘導し、中心市街地の拠点性を高めることにより、公共交通や徒歩による移動が可能な集約型の都市づくりを進める。
- ユニバーサルデザインに配慮することで誰もが暮らしやすい都市環境を整えるとともに、洪水・土砂災害・地震等に対応した災害に強い都市づくりを進める。
- 九州やアジアなど広域的な交流や産業の振興を支える都市ネットワークの形成を図り、活力ある都市づくりを進める。
- 住民と行政がそれぞれの役割と責任を分担しながら、エリアマネジメントの推進等、協働して地域特性を活かした個性豊かな都市づくりを進める。



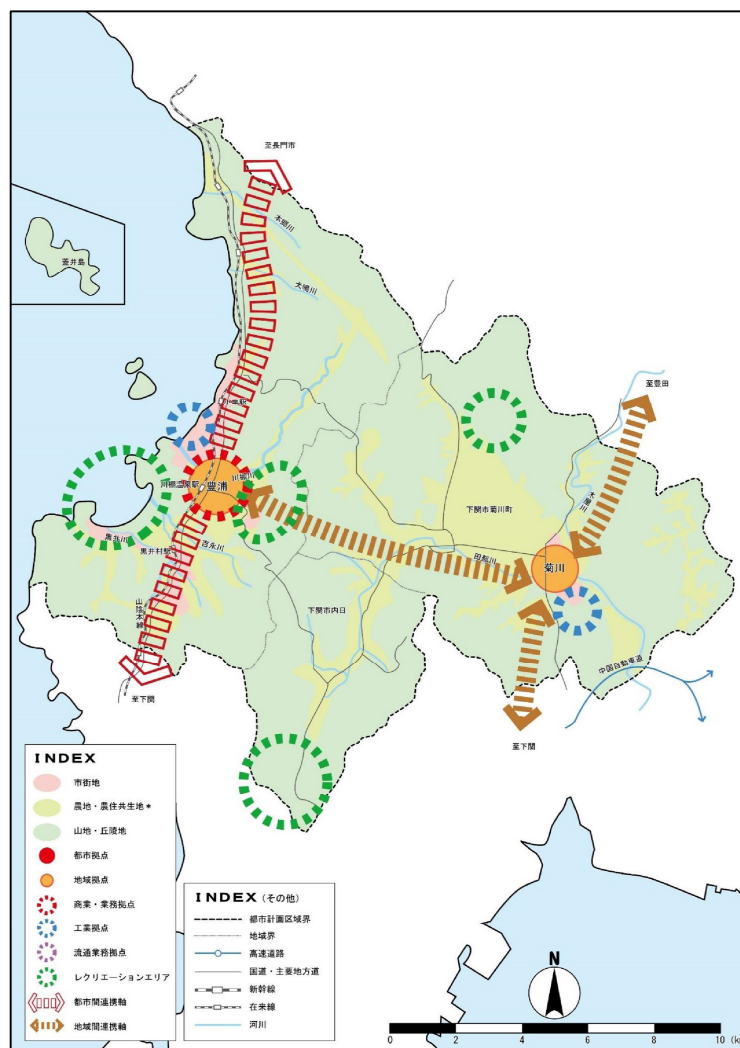
2. 3 下関北都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

策定年：令和2年（2020年）12月

目標年次：令和22年（2040年）

都市づくりの基本理念：豊かな自然と田園資源を活かしたリフレッシュ交流都市づくり

- 自然海岸などの豊かな自然環境と温泉、田園などの地域の資源を活かした魅力ある都市景観の形成を図り、歴史的環境と調和した美しい都市づくりを進める。
- 地域拠点の活性化を図るとともに、都市内に蓄積された都市基盤施設を活用することで、中心市街地の再構築を行う。また、立地適正化計画により居住機能等を誘導し、公共施設や業務・商業施設の集積を図ることで、公共交通や徒歩による円滑な移動が可能な集約型の都市づくりを進める。
- ユニバーサルデザインに配慮することで誰もが暮らしやすい都市環境を整えるとともに、洪水・土砂災害・地震等に対応した災害に強い都市づくりを進める。
- 都市部と農山漁村との交流や産業の振興を支える都市ネットワーク、観光ネットワークの形成を図り、活力ある都市づくりを進める。
- 住民と行政がそれぞれの役割と責任を分担しながら、エリアマネジメントの推進等、協働して地域特性を活かした個性豊かな都市づくりを進める。



2. 4 下関市都市計画マスタープラン

策定年：令和4年（2022年）3月

目標年次：令和22年（2040年）

都市づくりの基本理念：安全・安心で持続可能な都市づくりを目指し、
地域ごとにコンパクトで快適に暮らせる土地利用を図る

将来都市像：①活力・交流都市 山口県西部の発展をけん引する、活力ある都市
②快適・自然都市 快適な暮らしと自然景観を維持する、コンパクトな都市
③安全・安心都市 安全・安心な生活を支える、強くしなやかな都市

■ 将来都市構造

区分	役割	都市機能
都市拠点 	・都市拠点間で連携・補完し合いながら、山口県西部の発展をけん引し、市内外の人々が利用する高次で広域的な都市機能の集積を図ります。	総合行政 商業・業務 医療福祉
中心市街地 (下関駅～唐戸)	・JR下関駅周辺から唐戸地区周辺においては、中心市街地が有する多様な高次都市機能の集積を活かし、まちなか再生により、本市の顔として経済、文化、観光、暮らしを支える中枢的な都市機能と居住機能が共存する都市拠点の形成を図ります。	高次教育・文化・ コンベンション 広域交通結節
新下関駅 周辺	・JR新下関駅周辺においては、沿道サービスや高次教育等の都市機能集積、広域交通の利便性を活かし、商業流通業務地としての土地利用を促進するとともに、新たな都市的土地利用による都市拠点の形成を図ります。	
運動拠点	・下関運動公園に大規模な競技会等の開催が可能な基幹的な運動施設の立地誘導を図り、複数の学校が集まる周辺環境や交通利便性を活かして、市民のスポーツ・レクリエーションを支える運動拠点の形成を図ります。	
地域拠点 	・彦島、長府、小月、川中、安岡、山の田の6地区は、市街地内で身近な地域における日常生活サービスの提供、都市活動の維持を図るための拠点として、コンパクトな市街地の維持・活用を図ります。	支所 商業・業務 医療福祉 教育・文化 子育て、集会 交通結節
地域拠点 (田園住宅型) 	・豊浦、菊川の総合支所周辺は、身近な地域における日常生活サービスや都市活動の維持のための拠点として、コンパクトな市街地の維持・活用を図ります。	総合支所 日用品販売 身近な医療福祉 子育て、 地域文化 集会、交通結節
集落拠点 	・豊北、豊田の総合支所周辺は、身近な地域における日常生活サービス維持のための拠点として位置付け、集落ごとに小さな拠点の形成を図ります。	総合支所 日用品販売 身近な医療福祉 子育て 地域文化 集会、交通結節

■都市骨格軸

区分	役割	対象
広域連携軸 ◁□□□▷	・山陰・山陽・九州方面との広域的な人流・物流及び地域経済の活性化を担う軸として、位置付けます。	高規格道路（中国縦貫自動車道、山陽自動車道、下関北九州道路など）
連携軸 ●●●●●	・都市拠点と地域拠点、地域拠点相互を結び、都市機能サービスを補完するための連携軸として、様々な都市活動、地域間交流を支える道路、公共交通を位置付けます。	国道、県道、J R
沿岸軸 ////	・都市の個性を代表する資源として、美しい自然海岸を有する響灘、大型船が往来しシンボリックな海辺景観を有する関門海峡、瀬戸内海特有の穏やかな沿岸景観を有する周防灘の沿岸一帯を位置付けます。	響灘、関門海峡、周防灘の沿岸一帯

■将来都市構造図



2. 5 下関市地域公共交通計画

策 定 年：令和 7 年（2025 年）6 月

目標年次：令和 11 年（2029 年）

地域公共交通の達成すべき目標：市民が継続的に利用したくなる利便性の高い
公共交通サービスを安定的に提供する

基本方針	目標達成に向けた施策
I. まちづくりと連動した持続可能な公共交通ネットワークの構築	1) コンパクトプラスネットワークのまちづくりを支える公共交通体系の再構築 2) 交通結節点における利便性の強化
II. 地域公共交通のリ・デザインによる公共交通サービスのアップデート	1) 既存の地域公共交通体系のアップデート 2) 地域公共交通のリ・デザイン 3) メリハリのある公共交通の運用・支援 4) バス走行環境の改善 5) 利用しやすい・わかりやすい公共交通利用環境への改善 6) まちのにぎわい創出
III. 共創によってみんなで支える公共交通の実現	1) 多様な分野との連携促進 2) 利用しやすい公共交通サービスの推進 3) 公共交通の利用促進 4) 環境負荷を低減する取組みの推進 5) 公共交通利用意識を高めるイベント等の実施 6) わかりやすい公共交通情報の提供 7) 市民の公共交通へのニーズ把握

■ 公共交通ネットワークの分類イメージ

